

『私を創ってくれた3つの作品』

スペースデザイン部会員 福井 一真

【作品 1】



「楔」

素材：紅松

サイズ：W×D×H=200×100×170 (cm)

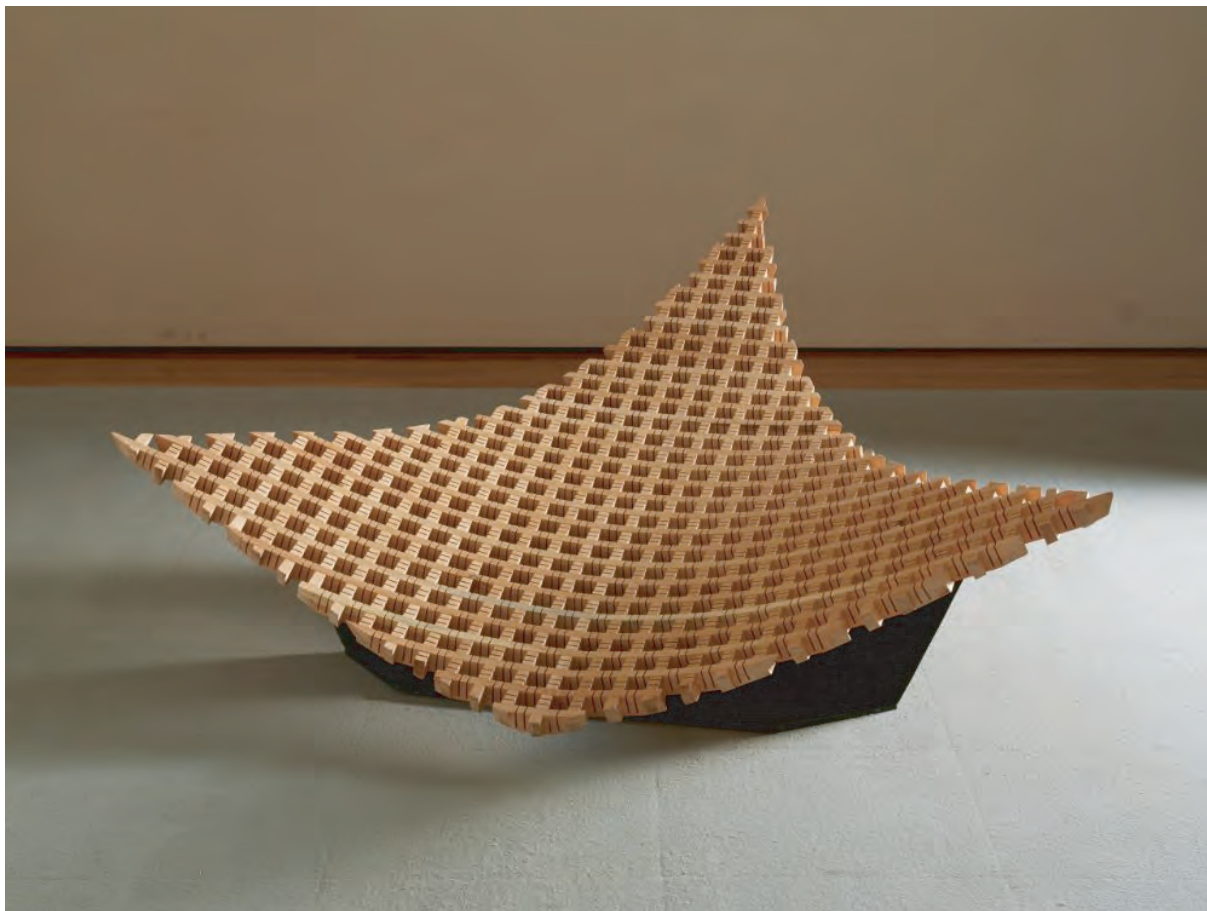
これは新作家賞を受賞した最初で最後の作品です。

この作品まで挽き曲げ（木にスリットを入れて曲げる技法）を使ってあれやこれやと色々と悪戦苦闘してきたのですが、一度原点に帰ろうと思ってシンプルに仕上げた作品です。

作品の形状についても配慮し、自分なりに丁寧につくっていたことが思い返されます。

この頃から、ただ曲げるということだけでなく、丁寧な加工とスリムな形状を意識し始めたような気がします。

【作品 2】



「格子 T01」

素材：紅松

サイズ：W×D×H=200×200×60 (cm)

この作品は、挽き曲げを利用して「球面」の生成を試みたものです。

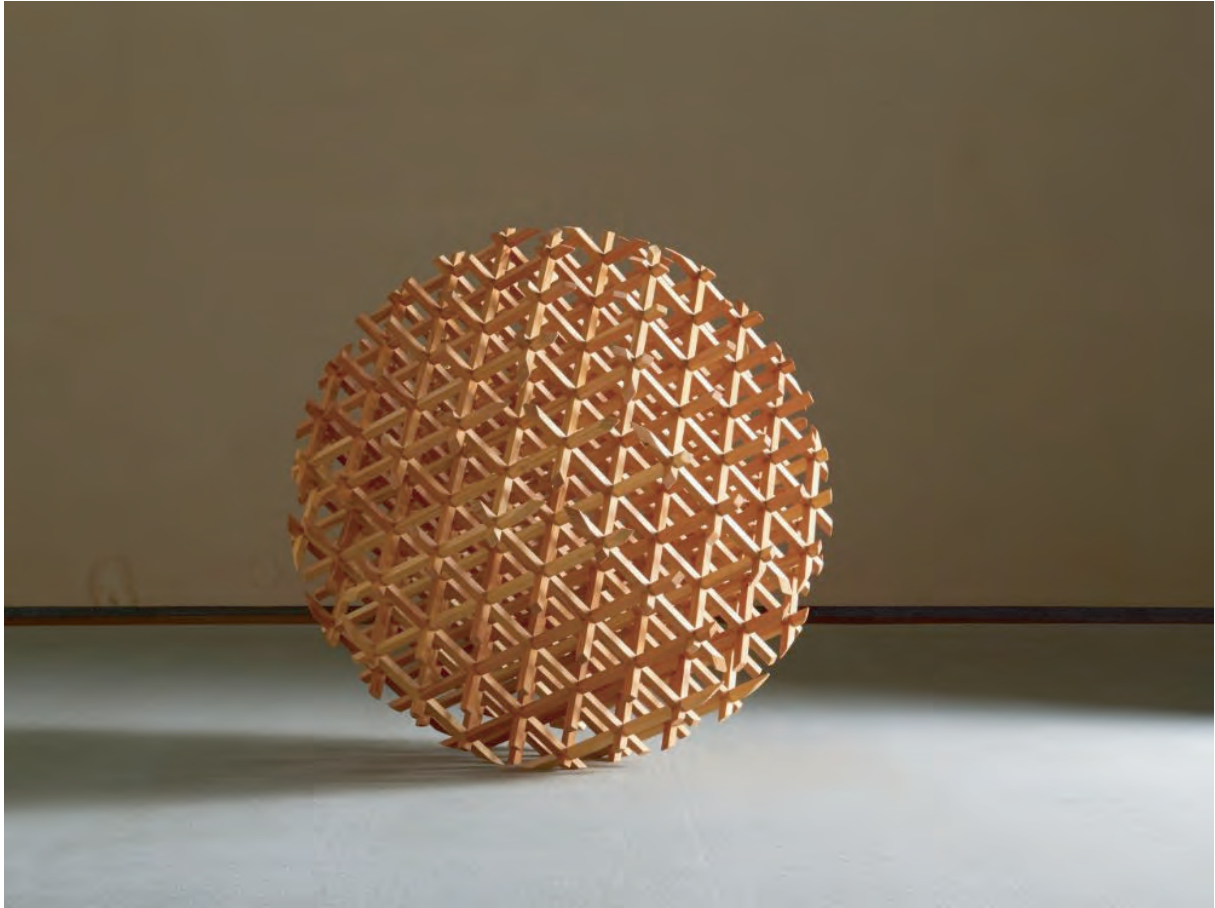
格子状にすることによってスリットが縦軸と横軸の双方から構成されるようになるため、縦への曲面と横への曲面を同時に生み出して「球面」ができないか、と考えたものです。

球面としてみると球面にみえなくもない。。

試みとしては一定の成果を得たのではないかと思います。

そして、この作品で会員推挙となりました。

【作品 3】



「cubework-まる-」

素材：米松

サイズ：W×D×H=60×60×130

挽き曲げから格子状の作品へ移行した後、その格子を立体に組んでいくということに発想がいきつきます。

「四方十字組手」という技法を多用して格子を立体にするという試みが、現在も続く cubework シリーズの始まりです。

これはこのシリーズの2作目となります。

この作品で、外側のフォルムだけでなく、木材が複雑に交錯する内側の面白さにも気付きました。また、1本が折れてもお互いに形を支え合うようになっているため作品として形状を維持できるような重層構造となっています。

2022年1月現在は、このシリーズも10作目となりましたが、もう少しこのシリーズの可能性を感じているところがあるので継続していこうと考えています。



- 1979年 京都市生まれ（現在愛媛県松山市在住）
- 2001年 第65回新制作展スペースデザイン部門 初出品初入選（以降、毎年出品）
- 2006年 音の彫刻コンクール 2006 準奨励賞受賞
- 2008年 第72回新制作展スペースデザイン部門 新作家賞受賞
- 2009年 兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科（上越教育大学配属） 修了
- 2010年 愛媛大学教育学部美術教育講座（美術科教育） 着任（現在に至る）
- 2010年 第74回新制作展スペースデザイン部門 会員推挙
- 2018年 cubework 福井一真展（個展：愛媛県美術館）
- 2019年 カタチカラ 2019（グループ展：愛媛県美術館）

「cubework 福井一真展」(個展)
2018年に愛媛県美術館で個展を開催。



「カタチカラ 2019」(グループ展)

2019年に愛媛県美術館にて愛媛県に縁のある新制作展出品経験者(絵画・彫刻・スペースデザイン)でグループ展を開催。
スペースデザイン部からは福井の他に佐伯和子氏と前田亮二氏が出品。

